欠かせない存在

令和５年１２月２５日をもって２学期が終わりました。今学期も、生徒の皆さんとは、様々な機会を通してお話しさせていただきましたが、私自身が皆さんの期待に応えられるように、常に真剣に向き合い、全力で寄り添うことを心がけました。

あらためて今学期を振り返ると、残暑厳しい中での文化祭からのスタートでした。クラスの力を結束させた発表や展示は、皆さんの可能性を知る機会となりました。また、運動系、文化系を問わず、各部活動では秋季大会や新人戦、コンクール出場などで活躍する皆さんの姿があり、校長としてとても誇りに思いました。

このような日々を経て、終業式を迎えましたが、皆さんにとっての２学期はどうだったでしょうか。よく、時間が経つのが早いと感じる時があります。それは一般的に「充実した」気持ちの表れだと思います。皆さんの中でも、精一杯がんばったと満足している人だけではなく、もっと努力すれば良かったなぁと少し悔しさが残る人でも、あっという間だったと感じることができれば、学校生活が充実していたに違いありません。

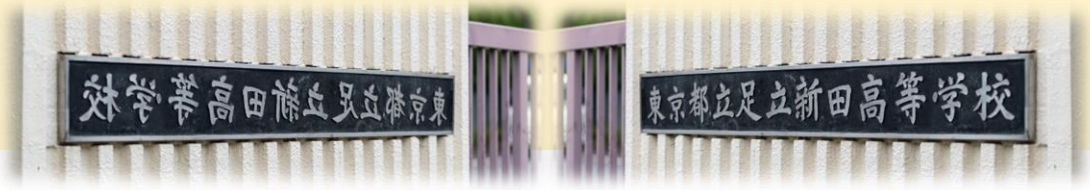
さて、私たちには、毎日当たり前のように友達と接し、授業や部活動、学校行事を通して人とのつながりを実感します。また、友だちとの会話は、自分の意見を述べたり、仲間の思いを受け入れたりすることの連続で、友だちの存在が自分の生き方に大きな影響を与えてくれていることに気が付きます。しかし、真剣な話になればなるほど、思いや考えは自分と一緒ではないことの方が多く、それでも大切な友だちのために、一生懸命に理解してあげようとします。なぜなら、自分が友だちを大切にしたい気持ち以上に、友だちにとっても自分が大切な存在でいたいと思う心の表れであり、それが人としての思いやりだからです。

先日、アメリカメジャーリーグエンジェルスの大谷選手がドジャーズへの移籍が決まりました。皆さんも御存知のことと思います。自身の抱負では、「優勝することを目指す中で、自分がチームにとって欠かせない存在となれるように頑張りたい。」と答えていました。

このコメントを聞き、私も生徒の皆さんにとって、そして先生方にとっても欠かせない存在であるか自問自答しました。ふと、今から３０年も前のことですが、教員となって間もない時、先輩の先生が言った言葉を思い出しました。それは、「生徒の態度は、担任の先生の心が映し出された鏡だ。自分がどう思うかではなく、相手がどう思うかが大切だ。」とのアドバイスでした。よく考えてみれば、自分の顔を自分で見るには、鏡に映し出すしかありません。自分の存在も同じです。家族やクラスにとって欠かせない一人になっているかは、家族や仲間の目に自分がどう映っているかで確かめられるのではないでしょうか。

例えば、自分に元気がない時でも「一緒にいると笑顔になる」「今日も楽しかった」と嬉しい言葉も、「あなたのここが嫌い」「あなたはここがダメ」と厳しい言葉も、大切な存在であるあなた心を映し出しているのでしょう。大谷選手が自分で「俺はチームにとって欠かせない存在だ！」などとは言わないのと同じよう自分の存在価値は、自分で決めることではなく、家族、友だち、先生方の言葉や行動によって決まるのではないかと思います。

私は、校長になった今でも、私を支えてくれる先生方や生徒の皆さんの言葉こそ、自分の力不足が映し出されたものと覚悟し、欠かせない一人になるための努力を続けています。皆さん一人一人は、本校にとってかけがえのない生徒です。うまくいかないことばかりが続いても笑顔を絶やさなければ、友だち、家族、先生にとって欠かせない存在になることをお伝えし、令和５年、最後の発気揚揚とします。良い年をお迎えください。



令和５年１２月